

令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立奥中学校	学校 No.	61
-------	----------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校では、「自立し貢献できる生徒の育成」を重点目標とし、生徒の内面に根ざした豊かな心の育成を目指し、さまざまな取り組みを重ねている。「自立貢献・地道徹底」を合言葉とし、社会福祉教育においても体験活動を重視する学習を進め、生き生きと活動し、社会貢献の喜びを感じられる生徒の育成を目指してきた。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

（1）エコキャップ回収活動

福祉委員が中心となって、ペットボトルキャップ回収を行った。各学年の昇降口に回収ボックスを設置し、福祉委員が数を集計した。集計した結果を一覧にして掲示したり、ポスターを作成して掲示したりするなど、回収の意識の向上を図った。回収したキャップはエコキャップ推進協会を通じて、ポリオワクチンの購入に役立てた。

（2）福祉実践教室

1年生が各講座に分かれて活動を行った。活動内容としては、視覚障がいのある人に付き添って歩くガイドヘルプや、点字で文章を作る活動、重りやゴーグルを着用して歩く高齢者疑似体験など、車いす、手話、点字、ガイドヘルプ、高齢者疑似体験、認知症理解の6つの講座があった。どの講座でも、講師の先生の説明や体験談に真剣に耳を傾ける姿や、友達と協力して楽しそうに体験活動をする姿が見られた。その後の感想用紙には、学んだことをこれからの生活に生かそうとする記述が多く見られた。

（3）赤い羽根共同募金

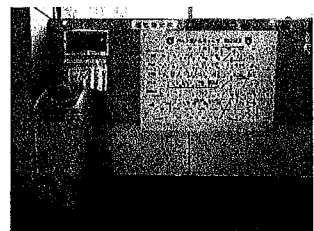
福祉委員が中心となって、赤い羽根共同募金を行った。登校時に昇降口前に立って、募金を呼びかけ、多くの善意を募ることができた。また、学級での趣旨の説明や協力の呼びかけ、給食の時間の放送による各日にちの結果報告などに取り組んだ。

（4）一人一鉢運動

生徒が一人一鉢を持ち帰り、卒業式や入学式で使用するパンジーを育てる活動を行った。緑化委員が中心となり、活動の内容や準備を周知した。生徒は、それぞれのパンジーを大切に育てており、卒業式や入学式で会場を飾り付けるために使用された。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

今年度は、新型コロナウイルスの影響が少しずつ少なくなり、昨年度実施することができなかった「福祉実践教室」を実施することができた。しかし、「青少年ボランティア福祉体験」「2年生職場体験」「奥町クリーン作戦」など、学校外の方たちと関わりながら取り組む活動の一部は依然として活動することができなかった。その中でも実施することができた「福祉実践教室」では、実際に活動することの重要性を改めて実感することができた。ただし、「エコキャップ回収活動」や「赤い羽根共同募金」は、事前の周知が不足していた部分も大きかった。例年行っている活動であっても、事前の周知をより積極的に行い、生徒の福祉に対する視野を少しでも広げていけるようにしたい。



※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立萩原中学校	学校 No.	62
-------	-----------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校の教育目標は、『校訓「礼儀・感謝・責任」の精神を学校教育の全面に生かし、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましく「生きる力」をもった生徒を育成する』である。そして、本年度の重点努力目標では、豊かな心の育成を目指す中で「福祉体験や職場体験、福祉体験ボランティア活動に取り組む」などの目標を立て努力してきた。これまでの経験と反省を踏まえて、「福祉実践教室」に継続的な活動に取り組んできたが、昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、「職場体験」は中止、「福祉体験ボランティア活動」は規模を縮小しての開催となった。しかし、制限された中での活動ではあったが、様々な行事を通して福祉教育の充実を図っていった。

○年間通しての美化活動やあいさつ運動 ○全校での「道徳教育」や「人権教育」の取組
○コロナ禍における学校行事「体育祭」や「合唱コンクール」の取組
○緑化運動 ○資源回収（年2回） など

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 花いっぱい運動（チューリップ祭り）

潤いのある学校生活の環境作りの一環として、季節の花を花壇で育てたり、校門付近や各学年の昇降口などにプランターを設置したりした。また、学校行事の際には、会場やグラウンドを季節の花で飾り、緑あふれる学校作りに努めた。また、毎年秋に、地域の方からチューリップの球根を寄付していただいている。そのチューリップの球根を、1年生が一人1つのプランターに植え、次年度の入学式をきれいな花で飾ろうという取組を実施している。

10月31日(月) 企画委員会及び職員会議で実施内容の検討。

11月14日(月) 学年会議で検討し活動計画の検討・確認。

12月初旬 朝のSTに1年生各クラスでプランター作り実施する。



(2) 人権読み聞かせ週間

毎年、PTAのボランティアの方々に協力を依頼し「読み聞かせ」を行っている。今年度も人権週間に合わせ、人権に関わる本を紹介したり、本に興味をもたせたりしている。読書を通じて豊かな感性、情操や思考力を育てていきたいと考えている。また、この期間に講師の方をお招きし、人権講演会も合わせて行い、人権教育の充実を図っている。

10月～ 読み聞かせボランティア募集。

11月中旬 ボランティアの方々との打合せを行う。

11月28(月)～ 全学年各クラスで人権読み聞かせ実施する。



(3) 福祉実践教室（1年生）

毎年、1年生を対象に福祉実践教室を行っている。一宮市社会福祉協議会と連携し、手話や点字、車いすなどの体験を行うとともに、障がいへの理解を図っている。生徒たちの取り組む姿勢はとてもよく、しっかりと話を聞いたり、各講座に真剣に取り組んだりすることができる。

9月 1日(木) 職員会議で検討。

10月 3日(月) 学年会議で検討し活動計画を立てる。

11月22日(火) 「福祉実践教室」についてオリエンテーションを行い、福祉に関しての資料を読む。

11月25日(金) 「福祉」や「ボランティア」について、図書館やchromebookを利用し、調べ学習を行う。

12月 2日(金) 社会福祉実践教室・レポートまとめをする。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、「ボランティア活動」など例年通り実施することができない状況であったが、例年とは違う形ではあるが、できる活動を充実させることで社会福祉への関心を高め、意欲的に活動することへつなげることができた。また、この一年を通して、生徒たちは人と人とのつながりの大切さや関わり方などを、行事や活動の中から多くのことを学ぶことができたと思われる。また今後は、感染症対策を講じながら、徐々にできることを増やしつつ、生徒の豊かな心を育てていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載

令和4年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立千秋中学校	学校No.	6 3
-------	-----------	-------	-----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校では、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図り、心身ともに健康で思いやりとたくましく生きる力をもつ生徒の育成を目指している。その一環として、福祉関係では、地域の介護福祉施設や授産施設との連携を図るなど、地域に密着したボランティア活動を意欲的に進めている。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

○ 福祉実践教室（1年生）

毎年1年生が障がいをもった方と、福祉について学習を行う。車イス・手話・点字・視覚障がい者ガイドヘルプ等の経験したことがないことに対して積極的に学ぶ姿が見られ、障がいのある方への理解を深めることができた。総合の時間などで、福祉の学習を行った。

○ 授産施設「かすみ草」へのボランティア参加

「かすみ草」では、地域連携行事として毎月第2土曜日に「土曜ミニ朝市」が、毎月第4土曜日に「レクリエーションボランティア」が開催されている。喫茶・みたらし団子・リサイクルバザー・野菜販売等の手伝いを行い、利用者と一緒にゴロバレーやボールカーリングなどを行った。（今年度は中止）

○ 「おもちゃ図書館なかよし」への参加

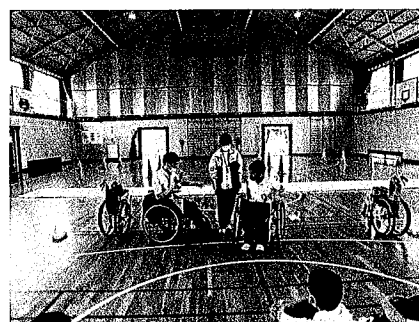
夏季休業中に、丹陽校区内にある「おもちゃ図書館なかよし」へ赴き、おもちゃ図書館の活動の体験を行った。子どもたちが楽しく遊べるように遊具を作ったり、子供たちと一緒に遊んだり、折り紙を折ったりして、子供たちとの交流を深めた。

○ 「青少年等ボランティア福祉体験事業」への参加

校区内にある施設「たんぽぽ 加茂の里」へ赴き、利用者の方とコミュニケーションをとったり、職員の方の仕事を手伝ったりして、デイサービス施設の活動の体験を行った。

3 福祉教育の成果と今後の課題

毎年行われる地域の各施設へのボランティアでは上級生を中心に積極的な参加があるが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため制限のある中での参加となった。コロナの状況が落ち着き、ボランティアの参加ができるようになったら、積極的に参加させたい。また、福祉に関する学習は継続的に行っていきたい。



令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立西成東部中学校	学校 No.	64
-------	-------------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

目 標
障害のある人々や高齢者との交流を通して、お互いの良さを認め合い、心豊かな生活が送ることができるようにする。

計 画
・ 全校生徒で福祉実践教室に取り組む。
・ 生徒会を中心にアルミ缶エコキャップ回収や赤い羽根の共同募金に積極的に取り組む。
・ 地域の敬老会にボランティアとして参加し、高齢者との交流を図る。

推進体制
・ 福祉実践教室は、福祉教育担当教師を中心に全校体制で進める。
・ アルミ缶エコキャップ回収や赤い羽根の共同募金は、生徒会活動担当教師が中心となって進める。
・ その他、ボランティア活動は、福祉担当教員が中心となり、他の教職員の協力を得て進める。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

- ・ 各種ボランティア活動への参加・・・・・・・・・・ 8月18日・23日～25日
- ・ 敬老会へのボランティア参加・・・・・・・・・・ 中止
- ・ 福祉実践教室・・・・・・・・・・ 6月16日
- ・ 生徒会による赤い羽根の共同募金・・・・・・・・ 2月1日～3日
- ・ 全校生徒によるアルミ缶エコキャップ回収・・・・ 毎月3日間
- ・ あいさつ運動へ参加・・・・・・・・・・ 毎月第3月曜日

3. 福祉教育の成果と今後の課題

- ・ アルミ缶エコキャップ回収や赤い羽根の共同募金に取り組むことで、社会貢献に対する生徒の意識が高まった。
- ・ あいさつ運動に参加し、募金同様社会貢献に対する生徒の意識が高まった。
- ・ 今年度も新型コロナウイルス感染予防のため、上記に記した活動のうち、昨年度より実施できたものが増え、福祉関係に関する学習ができたことが大きい。限られた時間と限られた場所で実施したため、十分とは言えないが、福祉に関する学習をする時間の確保ができたことはうれしい限りである。
- ・ 来年度も、感染防止策をとりながら、また、市内の感染状況を鑑みながら、ボランティア活動にも参加する機会を増やしていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 4 年度 一宮社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立大和南中学校	学校No.	65
-----	------------	-------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校では、校訓である「至誠」「自律」「敬愛」の心の育成をめざし、教師・生徒相互の信頼を深め、人間性豊かな生徒を育成するための様々な活動を行っている。前年度に引き続き、社会福祉への関心を深め、ボランティア精神を養い、実践力を身につけさせる活動を進めた。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) ボランティア委員会による校内活動

○ボランティア委員会の活動

常時活動として、ボランティア委員による清掃活動、花壇・プランターに水やりを行う活動を年間通して実施した。また、委員会の時間に校内の花壇の整備、グラウンドの草むしりや資源回収などを実施した。



(2) 社会福祉に対する関心・理解を深める活動

○福祉実践教室

5月27日（金）に福祉実践教室を行った。講師の先生方を招いて、1年生は、『手話』の講座、3年生は、『点字』の講座を行った。障がいがある方の社会との関わり方や苦勞を聞かせていただき、1年生は、実際に手話を使った実習を行った。それぞれの立場になって体験することで、助け合いの心や、思いやりの心を学ぶことができました。体験後の生徒の感想として、「呼びかけるときは肩を軽くポンポンと叩いてあげたい」「手話を教えてもらえたので、耳が聞こえない人に出会ったら生かしたい」「聴覚障がい者だけでなく、他に困っている人にも助けられることはあると思うので、よく考えて行動しようと思った」などが多くあり、生徒たちにとって貴重な体験の場となった。



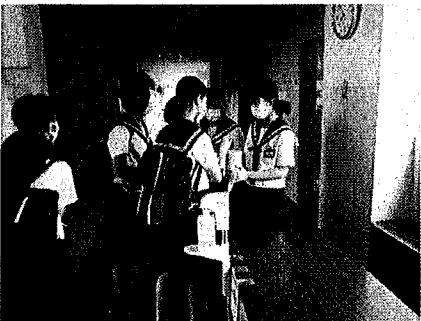
○青少年ボランティア福祉体験学習

夏休みに「障害福祉サービス事業所だいち」「樫の木作業所」「特別養護老人ホーム朝日荘」のボランティア活動に参加した。体験後の生徒の感想として「障がいがある人も一生懸命作業をされていてすごいと思った」「積極的に話をして、楽しくコミュニケーションをとることが大切だと感じた。このことを学校生活でも生かしていこうと思った」などが見られた。



○募金活動など

生徒会活動の一環として「赤い羽根共同募金」「緑の募金」の募金活動に参加した。活動を周知させるための呼びかけの効果もあり、多くの生徒の協力を得ることができた。



3 福祉教育の成果と今後の課題

各ボランティア活動には、多くの生徒が自発的に希望し、参加することができた。学校全体として、今後も積極的にボランティア活動に対する関心を持ち、理解を深められるように働きかけをしていきたい。